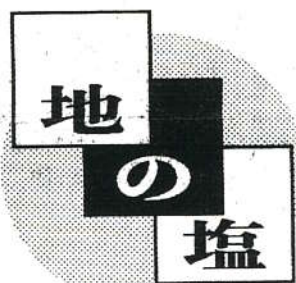


司祭職や修道者を目指す若者が減っているようだ。中・高生の養成機関である小神学校は閉鎖され、修道志願生や大神学生の数も減少している。

悲観することはないという考えもあるようだが、現役の司祭や修道者の高齢化を思うとき、教会の将来に不安を抱くのは当然であろう▼突如として

志願者が増えることはないし、毎年司祭叙階数はだいたい予測できる。司祭、修道者は急に亡くなるわけでもなく、昨今の状況は、既に何年も前

から予測されており、事実そのとおりになっている。司祭、修道者の召命は神のなさることなので、人の力ではどうしよ



うもなく、ただ神が言われるように祈ることしかできない……と神の側にその責任を押し付ける人もいる。私たちの祈りが足

りないのだろうか▼祈って司祭、修道者が増えるのであれば、何をさておいても祈りに明け暮れればいい。何よりも神ご自身が司祭、修道者の召命を願っているのではない。なのに召命が少ないのは、私たち人間の側にある原因があるとした考えられない。さらには、召命の減少の原因を社会や家庭にあるとする。社会の価値観が低下したとか、家庭の信仰生活が熱心でなくなった、という人もある。昔は家族そろって祈りをし、教会にも行った。召命はそんな熱心な家庭から生まれていたが、今はそのような家庭は少ない。だから召命が減った、というのである▼召命が減少した一番の原因は今の教会にある。教皇は、召命は神の呼び掛けへの応答だと言つ。そして、その呼び掛けは、教会の中で、とりわけ典礼（祈り）の中でなされる。神の呼び掛けが聞こえない。典礼だけでなく、教会そのものが問われている。若者が来ない教会。召命が減るのは当然だ。